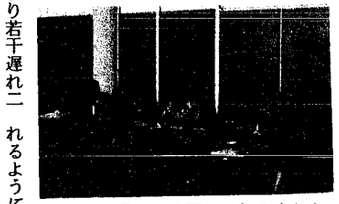
砺波農業機械銀行を視察

中核農家群研修

本年で三年目を迎えた中核農家群の一行は、一昨年に引き続き富山県を訪れました。今回は中核農家、白根農業改良普及所、農業協同組合、村の担当職員ら十七名は十一月六、七日の日程で当県の西部にある砺波市農業機械銀行を視察いたしました。この中核農家群は実践集団若しくは生産部長の職を有するものの中から村で指定した優良農家を対象に構成されており中核農家としての指導力のかん養、広い視野での見識をはかるために研修を行なったものです。

早朝六時に出発、道路事情から予定より若干遅れ一時頃目的地である砺波市農協に着いた一行は早速出迎えられた寺生産部長、河合専務理事より機械銀行の概要について講話を頂きました。この農協管内は昭和四十三年に合併し、耕地面積五〇三〇haのうち水田が四九六七haと全体の九八・七%を占めており、また、農家戸数も五七・六%にあたる四六〇〇戸余という田園都市を形成している地域です。一戸あたりの耕地面積、一〇アール当りの米の収量も少ないところから農業者自身の手で農業機械銀行が生まれたとのことです。



熱心に説明をきく研修参加の人たち

当初、旧農協単位あるいは任意組織の中で農業構造改善事業による土地基盤整備とあいまって大型機械・施設が導入され生産近代化が進められてきましたが、その後昭和四十六年からの米の生産調整と高度経済成長による就業構造の変化により出役労働力が減少し、部落共同体が崩れ、一方では中小機械体系の普及で個別化への移行が始まり、これらを契機に経営規模の少ない農家と機械施設の整った農家との間に作業受託が芽ばえ、その円滑なる推進を図るため農協等のあっせん、仲介が望まれるようになったことから昭和四九年度に農業機械銀行を設立したとのことでした。

その結果、受託者にとってはある程度安定した経営面積の確保、過剰投資の回避、更には農協等の仲介、あっせんにより受託料金等精算の手間、トラブル等が防げ大変喜ばれているとのことでした。しかしながら、農協サイドでの問題点も多く、また、農家間同志での受託でなく、農用地利用増進事業による集落ぐるみでの積極的な取り組みが今後、必要とされると結ばれて講話を終え、別れを告げました。

…インフルエンザ……

外出にはマスクを帰ったらうがいを!!

インフルエンザが流行しているときの外出は、感染の機会が増えるだけでなく、ほこりや冷たい外気はのどを痛めます。

さらに人ごみの中では心身ともに疲れ、体の抵抗力を弱めますので、老人や妊婦、慢性の病気のある人は不必要な外出を避けた方がいいでしょう。

どうしても外出しなければならないときは、マスクをし、帰ったらすぐ〃ウガイ〃をするように心がけてください。

うがいは、のどについたウイルスや細菌を殺す力こそありませんが、洗い落とすのに効果があります。

うがいは、のどを洗うのが目的ですから、水道の水でも十分です。水をふくんで天井を向き、ガラガラと数回やるだけでも効果があるものです。

外出から帰ったら、まずうがいを。

食品衛生一斉監視に参加して

食生活改善推進委員　五十嵐　藤　重

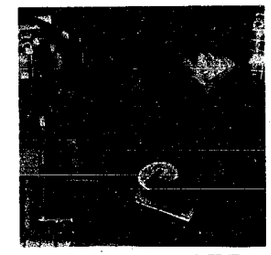
毎年、六月の祭り前と年末の二回、食品衛生協会の主催で料理屋さん、仕出し屋さん、食料品店舗などの一斉監視が行われます。

今回は、十二月一日に巻保健所の係員と食品衛生指導員、それに食生活改善推進委員から三人が参加して行われました。

幸わい小春日和の好天に恵まれ午前10時から三班にわかれ、各班には指導員と保健所の係員及び推進委員が一人づつ入り、一班は月潟上町十三件、二班は月潟下町十六件、三班はその他の地区の十六件の巡回で午後三時すぎまでかかりました。

この一斉監視は、私達の毎日の食事に直接かかわってくることでもあり、一生懸命に見てまわりました。

その結果、一般に店舗の整理整掃状況は六月に実施したときより良くなっていましたし、私達には目を見張るような衛生管理の行き届いた店もあった一方、調理施設の不備やお手洗いにやや難点があって、保健所の方から注意されたものもあり、一班からは欠陥商品が二点、二班三班からは商品管理に不行届の点があり、例えば、要冷蔵の食品が一般商品のなかに混っていたり、即席ラーメンなどが日なたに陳列されてあったのが指摘されました。



一斉監視に〃ちょっと緊張〃

総じて良心的で好成績でしたが、今回の監視は、予告があってのことで、これがもし抜き打ちであったら……　といういちまつの不安も残りました。

今年は、コレラや各地の食中毒の多発でマスコミをにぎわせましたが、本村でこのようなことがなかったことは食品衛生協会員の努力と、村民の食生活の重要性に対する認識の深さによるものと感じました。

これからも私達は、不良品を摘発するということではなく、消費者と商店とはますます協調し、共存共栄の精神をモットーに、その向上を図り「安心して買える食品を」を合い言葉として機会ある度にお互いの意見交換の場をもつようにして、食品事故のない健康で明るい村づくりに及ばずながら協力していきたいと思っています。

（健康づくり(3)）アルコールは麻酔剤

お酒のおいしい季節になってきました。今回はそのお酒について考えてみましょう。

お酒の飲み方にも上手、下手があります。上手に飲むと食欲は増進し、血液の循環もよくなって体の調子がよくなります。さらに神経や筋肉の緊張をほぐし、疲労回復、気分転換に役立ちます。しかし量を過したり、下手な飲み方をするとからだだけでなく心までも害することになります。毎日酒を飲んでいると、嗜癖といって単なる習慣以上に、毎日酒を飲まずにはいられない状態になってしまいます。これが「アルコール中毒」のはじまりで、最近は精神病者の中にしめるアルコール中毒者の数が増えてきていることは皆さんもご存知の通りです。

☆お酒を飲む時は次の点に注意しましょう。

1. 「適量」を知って飲むこと。
2. 毎日続けて飲まない。
3. 強い酒は「水わり」で、また「おかず」をたっぷりと
4. 「おかず」はタンパク質、ビタミンを中心に

これから忘年会、正月、新年会と飲む機会が多くなりますが、くれぐれも我を忘れずに！人に迷惑をかけずに楽しく飲みましょう。

よい子のみなさんこんにちは!!

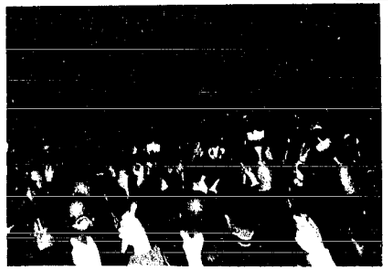
＝東北電力お話キャラバン隊＝

子どもたちがすこやかに、そして豊かに育ってほしい――そんな願いをこめて東北電力のお話きゃらばん隊のみなさんが、十一月十日に保育園を訪問して下さいました。「人形劇」、「リズム遊び」、「映画」、等次々にくりひろげられる興味深い出し物に、園児達の瞳はかゞやいていたようです。

はじめて手にしたマラカスは隊員のみなさんとすっかり意気統合、リズムに合わせて楽しく使っておりました。（写真）

人形劇はなじみ深い「猿かに合戦」でその熱演ぶりに全園児身をのり出して観ておりました。

お母さん方も参加され、子どもたちと楽しいひと時を過ごされました。



住宅改良資金等申込み受付中です。

＝住宅金融公庫＝

住宅金融公庫では、昭和五十三年度、第二回住宅改良（増・改築）資金等の申込みを左記のとおり行っています。

一、種別　住宅改良（増・改築）資金

受付期限　昭和54年1月31日まで

本年度より門・へい等を設置する場合も融資対象になります。

二、種別　大型住宅建設資金（一二〇㎡～一五〇㎡の住宅。）

受付期限　昭和54年1月31日

詳しいことは、住宅金融公庫北関東支所又は、公庫業務取扱店と表示した金融機関におたずねください。

歳時記　鏡もち

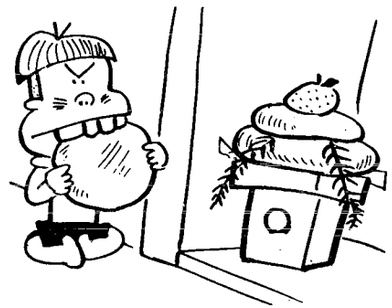
昔……といっても、ついこの間までのことですが、正月の鏡開きの日は、コチコチになってヒビの入った鏡もちを、金づちで割ってお汁粉に入れて家中で大喜びして食べたものです。

ところが最近では、この江戸時代から続いてきた儀式も、家庭では、だんだんすたれていくようです。

もっとも、いま市販されている鏡もちは、二段重ねのものを、重ねたままでパックしたものが多く、なんだか〃儀式〃としてのもち味も薄れた感がしないでもありません。もちも世につれ――とでもいいましょうか。そういえば、戦時中は米がなくて、土の素焼きの〃鏡もち〃を飾ったこともあったとか。

鏡もちのいわれは、丸い金属の鏡をかたどったもちを神に供えたもの、また、人の心臓をかたどったもの　などの説があるようです。

もちの形は、地方によっては平らな丸もちだったり、重ねも三枚のところがあるようです。

呼び名も〃おそなえ〃〃おすわり〃などいろいろです。

それにしても、鏡開きという江戸時代からの伝統がだんだん下火になると共に、家族が共に相よって祝い事をする機会がまた一つ消えていこうとしていることも事実です。